



大清一統輿地圖による

北過一邱……』と云ひて德興府即ち今の保定州には至らざりし如きも、長春は五月師至德興と記して茲より書を燕京に送りたると見ゆ、されと德興に至るものは直路には非ざるか如く、長春は茲に暫らく休息する爲めに、特に道を曲げしものならん、また昌州のことは記せされとも、撫州をすぎて東北蓋里泊に至り、其南に鹽池あるを云ふものは、德輝の州の東に鹽池ありといふものなるへく、兩者の行路全く符節を合するか如し、然も Taal-nor 以北の道に至りては、長春は北方斡赤斤の居を指せしを以て、沙漠を横斷せし德輝の道とは異れとも Kerulen 河を下りて Tola 河畔を経 Ugeinor 邊に至る迄の道は、ブレットシュナイデルの考證せるか如く、また能く相合するを見